

| | | | |
|---------|----------------------------|---------|----------|
| 科目名 | 児童学概論 | | |
| 担当教員名 | 宮里 暁美、平田 智久、金勝 裕子、上垣内 伸子 他 | | |
| ナンバリング | KAa101 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、卒業必修科目である。入学後初めに学習する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は、『社会について考える』というテーマのもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと社会」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探究する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者の講義内容について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容を把握し、ノートに記載する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、講義ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

内容

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | 宮里：科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明 |
| 2 | 向井：子どもが最初に出会う社会とは |
| 3 | 野口：“夢中になる、没頭する”遊び |
| 4 | 加藤：子どもの育ちを支える親、地域社会 |
| 5 | 潮谷：子どもの生活とソーシャルワーク |
| 6 | 鈴木康：子どもの身体活動と社会 |
| 7 | 横井：遊びにみる子どもと社会 |
| 8 | 平田：子どもは子どもの中で育つ |
| 9 | 藪崎：「子どもと音楽」について考える |
| 10 | 渡邊：身体表現と社会 |
| 11 | 上垣内：森のようちえん |
| 12 | 山田：子ども同士のつながりと遊び |
| 13 | 大宮：幼児とメディア |
| 14 | 鈴木晴：子どもと本屋さん |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（50点）、試験（50点）とし、総合評価60点以上を合格する。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】日常生活の中で子どもの姿を観察する。

【事後学修】授業ノートの整理を行い、読み返す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書の紹介や資料の配布を行う予定です。

| | | | |
|---------|----------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 児童学演習 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵、上垣内 伸子、横井 紘子、大宮 明子 他 | | |
| ナンバリング | KAa102 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は本学科の卒業必修科目となっている。実習を通じて、乳幼児とかかわりを持ちながら学習を進めていく。実習という体験学習を通して、自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を確立する。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となる。

科目の概要

最初の実習となる1年次の児童学演習では、本学が立地する新座において、子どもが育つ様々な現場に実際に出かけ、現代社会の中での保育・育児および子どもの生活の実態を知る。実習の事前指導・事後指導において、保育に関する現代的課題について調査研究活動を行い、1年次履修の他の専門科目を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。「地域に貢献する」学生を育てることをねらい、地域についても学修する。

学修目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 実習の事前指導・事後指導を通して、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 1年次履修の専門科目との関連を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認し、地域社会について主体的に学ぶ。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育および子ども支援サービスの場の見学実習を行う。具体的には、就学前の子どもの中での保育の場である幼稚園および保育所や、保育と育児に関連する場の見学実習を行う。

学校教育としての保育

- ・幼稚園（本学附属幼稚園）

児童福祉施設での保育

- ・保育所（新座市立保育所）

児童厚生施設等での健全育成事業

- ・児童センター
- ・子育てサロン（公民館等）

その他

実習の前後には、事前学習や事後の報告発表や話し合いの時間をもち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。

評価

実習のレポートや発表（50%）、実習および事前事後学習への参加状況（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業配布資料の整理及び管理を行う。関連する授業を振り返り、学びを確認しておく。

【事後学修】実習記録などの整理及び管理を行う。実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

最新保育資料集(2014) ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAb107 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

| 内容 | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 保育とは何か |
| 2 | 保育の歴史 |
| 3 | 乳幼児の生活と発達 |
| 4 | 子どもと遊び |
| 5 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷 |
| 6 | 保育の目的と目標 |
| 7 | 保育のねらいと内容 |
| 8 | 保育の環境 |
| 9 | 保育方法の原理 |
| 10 | 保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程 |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 |
| 13 | 家庭・地域との連携 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |
| 15 | 保育の今日的課題と未来への保育ビジョン |

評価

授業への参加態度や発言 (30%)、学期内の小レポート・小テスト (30%)、学期末試験 (40%) により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。普段から、子どもと保育に関する新聞などメディアにアンテナを立てて目を通しておくこと。

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておくこと。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

以下の3冊は、4年までの他の保育専門科目でも使用する。

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2014 ミネルヴァ書房 他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAb107 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

| 内容 | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 保育とは何か |
| 2 | 保育の歴史 |
| 3 | 乳幼児の生活と発達 |
| 4 | 子どもと遊び |
| 5 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷 |
| 6 | 保育の目的と目標 |
| 7 | 保育のねらいと内容 |
| 8 | 保育の環境 |
| 9 | 保育方法の原理 |
| 10 | 保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程 |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 |
| 13 | 家庭・地域との連携 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |
| 15 | 保育の今日的課題と未来への保育ビジョン |

評価

授業への参加態度や発言 (30%)、学期内の小レポート・小テスト (30%)、学期末試験 (40%) により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。普段から、子どもと保育に関する新聞などメディアにアンテナを立てて目を通しておくこと。

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておくこと。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

以下の3冊は、4年までの他の保育専門科目でも使用する。

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2014 ミネルヴァ書房 他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 教育学 | | |
| 担当教員名 | 狩野 浩二 | | |
| ナンバリング | KAb108 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから4年間にわたって教職科目や保育士科目を受講していくもっとも最初の時期に「教育・保育の基礎を学ぶ科目」をして開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

- 第1回：人間への問いと教育への問い (第1章1)
- 第2回：学ぶことと教えること (第1章2)
- 第3回：発達への助成的介入 (第1章3)
- 第4回：教育と教化と形成 (第1章4)
- 第5回：学校の登場 (第2章1)
- 第6回：近代学校の性格 (第2章2)
- 第7回：近代以前の日本の学校 (第3章1)
- 第8回：日本の「近代化」と学校教育 (第3章2)
- 第9回：新たな出発，その後の展開 (第3章3)
- 第10回：人は学び続ける (第10章1)
- 第11回：地球市民として生きるために (第10章2)
- 第12回：子どもの権利の発見 (第12章1)
- 第13回：子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」 (第12章2)
- 第14回：社会の変化と教育政策の動向 (第12章3)
- 第15回：まとめ

評価

班ごとの発表(20点)、各回毎の学修票作成(80点)を総合して、60点以上を合格点とし、単位を認定します。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理します。その上で講義に臨みます。

【事後学修】発表班の発表内容や各班討論の内容を整理し、自分の考えをまとめ、ふり返ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著『やさしい教育原理（新版補訂版）』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール（改版）上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd128 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

| | |
|----|---|
| 1 | 保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学 |
| 2 | 保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観 |
| 3 | 生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達 |
| 4 | 生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達 |
| 5 | 生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達 |
| 6 | 生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達 |
| 7 | 子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境 |
| 8 | 子どもの発達理解（2）感情の発達と自我 |
| 9 | 子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達 |
| 10 | 子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習 |
| 11 | 子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性 |
| 12 | 人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得 |
| 13 | 人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用 |
| 14 | 生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容についてしっかり復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd128 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

| | |
|----|---|
| 1 | 保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学 |
| 2 | 保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観 |
| 3 | 生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達 |
| 4 | 生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達 |
| 5 | 生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達 |
| 6 | 生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達 |
| 7 | 子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境 |
| 8 | 子どもの発達理解（2）感情の発達と自我 |
| 9 | 子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達 |
| 10 | 子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習 |
| 11 | 子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性 |
| 12 | 人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得 |
| 13 | 人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用 |
| 14 | 生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容についてしっかり復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子、長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd129 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握 |
| 2 | 子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 |
| 3 | 子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 |
| 4 | 子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達 |
| 5 | 子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り |
| 6 | 子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制 |
| 7 | 子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境 |
| 8 | 学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び |
| 9 | 学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| 10 | 保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助 |
| 11 | 保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助 |
| 12 | 保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり |
| 13 | 保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援 |
| 14 | 保育における発達援助(5)発達援助における協働 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子、長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd129 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握 |
| 2 | 子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 |
| 3 | 子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 |
| 4 | 子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達 |
| 5 | 子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り |
| 6 | 子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制 |
| 7 | 子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境 |
| 8 | 学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び |
| 9 | 学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| 10 | 保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助 |
| 11 | 保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助 |
| 12 | 保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり |
| 13 | 保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援 |
| 14 | 保育における発達援助(5)発達援助における協働 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子、長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd129 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握 |
| 2 | 子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 |
| 3 | 子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 |
| 4 | 子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達 |
| 5 | 子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り |
| 6 | 子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制 |
| 7 | 子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境 |
| 8 | 学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び |
| 9 | 学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| 10 | 保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助 |
| 11 | 保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助 |
| 12 | 保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり |
| 13 | 保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援 |
| 14 | 保育における発達援助(5)発達援助における協働 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子、長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd129 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握 |
| 2 | 子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 |
| 3 | 子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 |
| 4 | 子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達 |
| 5 | 子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り |
| 6 | 子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制 |
| 7 | 子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境 |
| 8 | 学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び |
| 9 | 学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| 10 | 保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助 |
| 11 | 保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助 |
| 12 | 保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり |
| 13 | 保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援 |
| 14 | 保育における発達援助(5)発達援助における協働 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe134 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶものである。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

| | |
|----|-------------------|
| 1 | 私たちの眼からみた子どもを囲む状況 |
| 2 | 子ども家庭福祉と権利擁護 |
| 3 | 子ども家庭福祉の対象 |
| 4 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷 |
| 5 | 子ども家庭福祉の法体系と実施体制 |
| 6 | 児童福祉施設と専門職 |
| 7 | 保育・教育施設と幼保一体 |
| 8 | 保育・教育施設と幼保一体 |
| 9 | 子育て支援サービス |
| 10 | 戦後日本の子育て環境をみつめる |
| 11 | 戦後日本の子育て環境をみつめる |
| 12 | 母子保健と児童の健全育成 |
| 13 | 社会的養護と児童虐待 |
| 14 | 障害のある子どもへの支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(20点)、期末テスト(60点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】日常生活において子どもの生活を気にかけること。最新保育資料集に目を通すこと。

【事後学修】授業ノート等を読み返し、次回の授業に備えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 児童家庭福祉論（ミネルヴァ書房） 最新保育資料集2015（ミネルヴァ書房）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe134 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶものである。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

| | |
|----|-------------------|
| 1 | 私たちの眼からみた子どもを囲む状況 |
| 2 | 子ども家庭福祉と権利擁護 |
| 3 | 子ども家庭福祉の対象 |
| 4 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷 |
| 5 | 子ども家庭福祉の法体系と実施体制 |
| 6 | 児童福祉施設と専門職 |
| 7 | 保育・教育施設と幼保一体 |
| 8 | 保育・教育施設と幼保一体 |
| 9 | 子育て支援サービス |
| 10 | 戦後日本の子育て環境をみつめる |
| 11 | 戦後日本の子育て環境をみつめる |
| 12 | 母子保健と児童の健全育成 |
| 13 | 社会的養護と児童虐待 |
| 14 | 障害のある子どもへの支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（20点）、期末テスト（60点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】日常生活において子どもの生活を気にかけること。最新保育資料集に目を通すこと。

【事後学修】授業ノート等を読み返し、次回の授業に備えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 児童家庭福祉論（ミネルヴァ書房） 最新保育資料集2015（ミネルヴァ書房）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe135 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、課題の考察（講義13.14）が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

| 内容 | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義 |
| 2 | 現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 (1) 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク |
| 15 | まとめ |

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識を確認しておくこと。並びに、社会的ニュースに関心を持ち、高校までに学んだ歴史、政治、経済、現代社会などの知識を振り返っておくこと。

【事後学修】授業中に配布した資料や、提示したテキストから授業中に触れた内容を再度確認し、知識として整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe135 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、課題の考察（講義13.14）が可能になることを目的とする。

学修目標本 講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

| 内容 | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義 |
| 2 | 現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 (1) 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク |
| 15 | まとめ |

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識を確認しておくこと。並びに、社会的ニュースに関心を持ち、高校までに学んだ歴史、政治、経済、現代社会などの知識を振り返っておくこと。

【事後学修】授業中に配布した資料や、提示したテキストから授業中に触れた内容を再度確認し、知識として整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf142 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

- 1 小児保健とは 母子保健統計
- 2 母子保健行政の流れ
- 3 母子健康手帳の変遷と役割
- 4 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5 乳児・幼児の発達と反射
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 女性の喫煙・飲酒と胎児への影響
- 8 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 9 子どもの睡眠
- 10 子どもの生活リズム
- 11 子どもの気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【推薦書】

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf142 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

- 1 小児保健とは 母子保健統計
- 2 母子保健行政の流れ
- 3 母子健康手帳の変遷と役割
- 4 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5 乳児・幼児の発達と反射
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 女性の喫煙・飲酒と胎児への影響
- 8 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 9 子どもの睡眠
- 10 子どもの生活リズム
- 11 子どもの気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【推薦書】

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 金勝 裕子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 01 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 02 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 03 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 04 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 05 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 06 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 07 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 08 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 09 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 10 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 11 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 12 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 13 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 14 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 15 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 16 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 17 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 18 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 20 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 21 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 22 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 23 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 24 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 25 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 26 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 27 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 30 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 28 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 29 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 19 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 平田 智久 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 平田 智久 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 平田 智久 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 平田 智久 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

| 内容 | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 6 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 7 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 8 | 身近にある材料を使った表現 |
| 9 | 身近にある材料を使った表現 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現 |
| 12 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 15 | まとめ |

評価
 授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習
【事前予習】 必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。
【事後学修】 教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）
 教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

| 内容 | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 6 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 7 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 8 | 身近にある材料を使った表現 |
| 9 | 身近にある材料を使った表現 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現 |
| 12 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

| 内容 | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 6 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 7 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 8 | 身近にある材料を使った表現 |
| 9 | 身近にある材料を使った表現 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現 |
| 12 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール |
| 5 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 6 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 7 | 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について |
| 8 | 身近にある材料を使った表現 |
| 9 | 身近にある材料を使った表現 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現 |
| 12 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 素話と言葉遊び |
| 2 | 児童文化と、保育の中の遊び |
| 3 | 物語の解釈と、絵本の読み聞かせ(1) |
| 4 | 絵本の読み聞かせ(2) |
| 5 | 絵本の読み聞かせ(3) |
| 6 | 紙芝居の読み聞かせ(1) |
| 7 | 紙芝居の読み聞かせ(2) |
| 8 | 素話の発表 |
| 9 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(3) |
| 12 | わらべうた、手あそびうたの実演 |
| 13 | 絵本作りの発表と合評会 |
| 14 | オノマトペを楽しむ |
| 15 | まとめ |

評価

授業への取り組み30%、提出物30%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書該当頁を読み、重要な箇所に線を引いておく。「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を読み進める。授業内容を把握し、実演前にはよく練習してくる。

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川清実編「演習 児童文化－保育内容としての実践と展開」 萌文書林

【推薦書】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

【参考図書】皆川美恵子・武田京子編著「児童文化－子どものしあわせを考える学びの森」 ななみ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 素話と言葉遊び |
| 2 | 児童文化と、保育の中の遊び |
| 3 | 物語の解釈と、絵本の読み聞かせ(1) |
| 4 | 絵本の読み聞かせ(2) |
| 5 | 絵本の読み聞かせ(3) |
| 6 | 紙芝居の読み聞かせ(1) |
| 7 | 紙芝居の読み聞かせ(2) |
| 8 | 素話の発表 |
| 9 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(3) |
| 12 | わらべうた、手あそびうたの実演 |
| 13 | 絵本作りの発表と合評会 |
| 14 | オノマトペを楽しむ |
| 15 | まとめ |

評価

授業への取り組み30%、提出物30%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書該当頁を読み、重要な箇所に線を引いておく。「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を読み進める。授業内容を把握し、実演前にはよく練習してくる。

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川清実編「演習 児童文化－保育内容としての実践と展開」 萌文書林

【推薦書】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

【参考図書】皆川美恵子・武田京子編著「児童文化－子どものしあわせを考える学びの森」 ななみ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

内容

| | |
|----|------------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験 |
| 6 | 幼年童話・昔話・素話の世界 |
| 7 | お話の体験 |
| 8 | 言葉遊び |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた |
| 10 | 人形劇・影絵 |
| 11 | ペープサートについて |
| 12 | ペープサート体験 |
| 13 | 伝統的玩具、遊び |
| 14 | 絵本つくりと合評・季節の行事と言葉 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への取り組み 30% 提出物 30% 試験 40% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究を深める。

児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】演習 児童文化 小川清美編 萌文書林

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針

【参考図書】

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

| 内容 | |
|----|------------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験 |
| 6 | 幼年童話・昔話・素話の世界 |
| 7 | お話の体験 |
| 8 | 言葉遊び |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた |
| 10 | 人形劇・影絵 |
| 11 | ペープサートについて |
| 12 | ペープサート体験 |
| 13 | 伝統的玩具、遊び |
| 14 | 絵本つくりと合評・季節の行事と言葉 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への取り組み 30% 提出物 30% 試験 40% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究を深める。

児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】演習 児童文化 小川清美編 萌文書林

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針

【参考図書】